

福祉 ちば

No.144 2009.2.20 発行



しっかり噛んで、
おいしく食べれば健康!!



地域の福祉、
みんなで参加

赤い羽根
共同募金

「食べ物はちゃんと噛むことができますか?」、「ごはんをおいしく食べていますか?」——こんな歯医者さんの質問に、ニッコリとうなずくお年寄りたち。

浩養地区社協(富里市)が開いている地域交流会に、歯医者さんと歯科衛生士さんが地域貢献の一環として参加。お年寄りの歯や口の中の状態や機能を調べました。ご飯はしっかり噛んで、おいしく食べるこそが、何よりも健康づくりになります。

大きく口を開いて「あー」、口を横にして「いー」——と、みんなで一緒に“健口体操”も楽しみました。楽しいひとときを過ごしながらか健康づくりにも一役! そんな欲張りイベントは大好評でした。

(詳しくは、2~3ページをご覧ください)



編集・発行 社会福祉法人千葉県社会福祉協議会
〒260-8508 千葉市中央区千葉港4番3号 TEL.043-245-1101 FAX.043-244-5201 <http://www.chibakenshakyo.com>



この広報誌「福祉ちば」は、共同募金の配分金の一部によって発行しています。

楽しいイベントで“お口の健康”をCheck(チェック)!!

手を取り合い、地域ぐるみで 取り組む介護予防



歌や踊りを楽しんだり、みんなで一緒に食事をしたり……。そんな地域の交流イベントで、歯科医師と歯科衛生士が〈歯科健診〉を行いました。健診を受けにお医者さんにわざわざ出かけて行くのはちょっとおっくう…。でも、楽しいサロンのイベントにジョイントした“健康づくり”なら、み～んな大歓迎!!

よく噛むことで頭脳が活性化

富里市十倉にある「実の口集会所」で開かれた『第11回地域交流会』（浩養地区社会福祉協議会が平成20年12月6日に主催）に、新たな試みとして歯科健診が盛り込まれ、歯科医師の近藤功医師と、歯科衛生士の関マリさん、花村昭子さんが専門職の地域貢献の一環として参加しました。

まず最初に近藤医師は、よく噛むことが脳への刺激を促し肥満防止や、健康づくりに大きな効果があることを〈卑弥呼（ヒミコ）の歯がいーぜ〉（※1）を用いて分かりやすく説明しながら、隣室に用意された健診スペースで、お年寄り一人ひとりの歯の数や、義歯の状況をていねいにチェックし、唾液を飲み込む回数や口の周りの筋肉の機能を調べるテストなどを行いました。

この日、歯科健診を受けた方は10名で、よく噛んで食べることができる元気な方ばかり。健診の順番を待つ間には、脳を活性化させるクイズに挑戦。上位回答者には、素敵な賞品が用意されました。

また、富里市内の愛好家によるフラダンスや、地元のお年寄りによる民謡の大漁節も披露され、会場は和やかなムードに包まれました。続いて、心づくしのお弁当が配られ、昼食を楽しんだ後は、関さんと花村さんの指導で“健口体操”が実施されました。口を開けて舌を出し、上下や左右に動かしたり、くちびるに沿ってグルリと回したり、頬をふくらませたり、すぼめたり…どれも手軽にできるものばかり。たった10分ほどの体操ですが、表情が豊かになり、唾液の分泌を促し、誤嚥防止の効果が期待できます。

交流会に参加した約45名のうち18名が、70歳以上の地域の方で、ひとり暮らしのお年寄りや障害者、各地区の区長さん、民生児童委員や主任児童委員などのボランティアの方たちと楽しくふれあいました。

（※1）ひ…肥満防止／み…味覚／こ…言葉はつきり／の…脳への刺激／は…歯の病気予防／が…「ガン」予防／い…胃の働きを助ける／ぜ…全身の体力向上

全国初の取り組みです

この歯科健診は、地区社会福祉協議会による〈ふれあい・いきいきサロン〉や〈ふれあい会食〉の活動に、千葉県歯科医師会が8020推進財団の助成を受けて実施する〈後期高齢者歯科健康診査事業〉を組み合わせたイベント。

地域のサロン活動に、千葉県歯科医師会（県歯科衛生士会も協力）が歯科医師や歯科衛生士を派遣。後期高齢者（75歳以上）とそれに近い年齢の方を対象に地域住民と協力し合い、歯科健診、口腔機能体操、講演、アンケート調査などで健康づくりや介護予防に役立てようという保健と福祉の協働による試みです。

平成19年度にモデル事業として行われ、20年度は11月から21年3月までの間に17市町村29カ所で行われます。19年度は県歯科医師会からの派遣でしたが、20年度は地域貢献として県歯科医師会各支部から地域の歯科医師・歯科衛生士を派遣し、浩養地区は2番目の実施となりました。

地域住民が集まり、ふれあうことだけでも健康づくりにつながりますが、専門職が加わることでさらに大きな効果を期待できます。何気なく参加しても、歯を大切にすることやよく噛むことの素晴らしい効能を知れば、今後の歯科健診に参加するキッカケとなります。噛んだり、飲み込む力を維持する口腔ケアは、高齢者の介護予防への効果も期待できます。小地域活動と連携して地域の歯科医師会が歯科健診に関わる事例は、全国初の斬新な取り組みです。

バスハイクから食事会に発展

「地域交流会」の前身は、昭和62年から地域ぐるみの活動として行ってきた春と秋のバスハイク。お花見や紅葉狩り、水族館見学などを行っていましたが、遠出のできない方のための催しも必要と考え、秋の催しを食事会に変えました。

富里市では、平成9年に8小学校区を単位に地区社会福祉協議

浩養地区社会福祉協議会（富里市）



関さん（左）、花村さん（右）による“健口体操”



何より〈よく噛むことが大切〉とアドバイス

会が設置され、浩養小学校区でも浩養地区社協を設立しました。民生児童委員を主体に区長会、青少年相談員、学校長、PTA会長、保健推進員、シルバークラブ、知的障害者福祉施設の長、幼稚園長、個人ボランティアなどで構成。小学校の会議室を拠点とし、平成12年に総合学習がスタートすると、昔の遊びの伝承、戦争体験の話、ゲートボールなどを通して児童たちとの交流が盛んになっていきました。

平成14年からは、60歳以上の方を対象に〈いきいきサロン浩養〉もスタート。毎月第2金曜日に小学校の会議室で生け花、寄せ植え、手芸、健康体操などを楽しみ、昼食は多目的室で全校児童と一緒に給食を食べます。授業の合い間には、児童が自由に入りし、オセロや将棋、手芸で異世代交流が自然に行われ、平成16年には、0歳児から就学前の子供と親を対象に〈子育てサロン〉も開催しています。また、毎週金曜日には、小学校の会議室や多目的室などで開いていますが、参加者が増えないのが悩みです。

「支え合い、楽しく」が長続きの秘訣

富里市の高齢化率は、県内では低い方で、農村部の浩養地区は、核家族よりも三世同居の多い土地柄です。それでも「やはりふれあいサロンや子育て支援は、絶対に必要です」と話すのは、富里市社協副主査の花島和彦さん。「同じ悩みを持つ仲間同士が情報を交換したり、気兼ねなく出かけて茶飲み話のできる“ご近所のたまり場”は大切だと思います」。

地区社協の多彩な事業を支えているのは、民生児童委員や主任児童委員、ボランティアの方々です。ピアノが得意、生け花の心得がある、スポーツが大好き—などそれぞれ得意技や持ち味を発揮しながら活動しています。

「絶対に一人ではできないこと。支えてくださるたくさんのボランティアの方がいるから、これまで続けていくことができました。そして、自分自身も楽しむことが大切ですね」と浩養地区社協会長の宮川朱実さんは話します。



よく噛んで食べるのが大切です

■歯学博士 近藤功先生（四街道市 近藤歯科医院）の話

印旛郡市歯科医師会から派遣されて参加しました。歯科医師として、地域貢献も大切な役割と考えています。行政等が「歯の健診をやりませう」と言っても、なかなか人は集まりません。でも、地域のイベントの一環で行うことでなら気軽に参加してもらえます。みなさんしっかり噛めていて、現在の「いい状態」を保って欲しいですね。そのためのお手伝いや、今回の健診の記録を今後の治療の目標にさせていただくこともこの事業の目的です。「きちんと噛める歯が何本あるか？」を診ています。入れ歯でも、自分の歯でも、きちんと噛む・食べることが肝心。〈8020運動〉は必ずしも〈80歳で20本歯がなければ〉ではなく、入れ歯をしてきちんと食べることができれば、同じ効果があります。

「お互いさま!」を合言葉に、福祉のまちづくりを推進



西澤君枝さん



岩戸ヒロ子さん



山本正一郎さん

市民・行政・社協が協働し、「地域」をキーワードに福祉コミュニティづくりを進める市川市。これを受け、「市川市社会福祉協議会 地域福祉ボランティアセンター」では、地域福祉の最前線の担い手であるボランティアの発掘、育成、派遣事業により、新しいカタチの〈向こう三軒両隣り〉を築くため、全力で取り組んでいます。

■市民・行政・社協の協働作戦が進行中

市川市は、平成15年に「地域福祉計画」を策定し、平成13年度からスタートした14カ所の地区社協を運営母体とする「地域ケアシステム」を中心に、市民・社協・行政が連携し、それぞれが役割分担をしながら地域福祉を進めていく仕組みを整えました。更に、市内を3つの福祉圏域に分け、地域活動を専門的に支援していく〈コミュニティワーカー〉を配置しました。

これに合わせ、市川市社会福祉協議会（以下、いちかわ社協）では、平成17年に〈安心して生み育て、安心して老いを迎えることができる都市〉を目標とする「地域福祉活動計画（わかちあいプラン）」を発表し、公的福祉サービスを担う市の〈公助〉に対し、社協は市民が自ら担っている福祉活動を〈互助〉と位置付け、〈公〉との調整を図りつつ積極的に努力することとしました。

また、いちかわ社協では、地域福祉推進のシンボルとして、「てるぼサロン（ふれあい・いきいきサロン）」を、すでに市内37カ所に設置し、平成22年3月までに約3倍の100カ所まで増やす、〈てるぼサロン100カ所構想〉を掲げ、公民館や自治会館などの公共施設を中心にサロンづくりを進めています。

■使命は、人材の発掘、育成、マッチング

ボランティアセンターの使命は、地域のボランティアの裾野を広げるための人材発掘をはじめ、「ボランティア活動をしてみたい」という人の相談、登録、育成、派遣、また「ボランティアに来て欲しい」という人からのニーズの受付、相談、活動を希望するボランティアとのマッチング——等を行う。

また、日常業務のほかに、「てるぼサロン」や各種イベントへの参加、ボランティアからの報告などを通じ、市民の福祉ニーズを的確に把握することも重要な仕事の1つです。

登録ボランティアは、平成20年12月現在で103団体、個人が362名——。病院の小児病棟での遊び相手や学習支援、小・中学生が対象の「マジック教室」、妊娠中の女性のための「親

育ち事業」の開催、外国人が日本の伝統行事や料理を体験する機会の提供——等、時代を感じさせる新しい活動も次第に増えてきました。

これらのボランティア活動をめぐるセンターの業務の中心となっているのが、9名のボランティアコーディネーターです。いちかわ社協では、市内2カ所にボランティアセンターを設置しており、地域福祉ボランティアセンターでは1日2人体制、行徳ボランティアセンターでは1ないし2名体制——これをローテーションでまかっています。

■やりがいや魅力を実感できる活動です

ボランティアコーディネーターの岩戸ヒロさんは、専業主婦だったのですが、平成4年に市の広報で視覚障害者のガイドヘルパーの募集があることを知って早速応募し、それから、その活動に専念してきましたが、平成10年にボランティアセンターから「コーディネーターの仕事をやってみないか？」と声がかかり、引き受けたとのこと。

平成7年の阪神淡路大震災の際には、中学生から高校・大学生、サラリーマン、主婦、高齢者に至る幅広い年齢層のボランティア活動志望者が大勢相談や登録に訪れましたが、近年は特に若い世代の登録がめっきり減っているのが心配のタネと岩戸さんは表情をくもらせます。

また、せっかく「ボランティア活動をしてみたい」と窓口を訪れたのに「この日、1日だけの活動を——」といった条件付きの希望も増え、「私の経験では、ボランティア活動は、もう一歩踏み込んだら、必ず楽しいことや“やりがい”を実感できると思うのです。このことを一人でも多くの活動志望者に伝えていきたい」と話しています。

ボランティア育成のため、また資質や技能を高めてもらうため、センターでは各種の講座も開催し、平成19年度は、①サロン活動支援講座、②小・中学生ボランティアスクール（保育園での体験を含む）、③中級ボランティア講座、④障害児支援ボランティア講座、⑤ボランティアスクール、⑥シニアボランティア講座、⑦お話し相手ボランティア講座等を開催しました。

活動の魅力伝え、担い手を増やしたい

■西澤君枝・地域福祉ボランティアセンター所長の話＝最近のボランティア派遣相談の中に、家族と一緒に住んでいるのに「ごみ捨て」などがあり、「家族がいるのになぜ？」と思うのですが、「家族に頼めないからお願いしている」との回答。隣り近所だけでなく、家族関係にまで人としてのつながりの希薄さを実感させられています。また、高齢者を中心として、「話し相手のボランティアに来て欲しい」との声は増える一方で、私共としてはそれらの声に適切に応えていくこと、ボランティア活動の魅力の人々に伝えて、担い手を増やし、〈新しいカタチの向こう三軒両隣り〉の実現に努めていかなければ——と考えています。

ボランティアセンターの主な仕事

- ボランティアの募集、登録
- 福祉施設、在宅支援へのボランティアの派遣
- 福祉情報の提供（てるぼ通信）
- 関係機関との連絡調整
- ボランティア協会との連携
- 各種ボランティア保険の紹介、加入手続き
- ボランティア基礎講座や障害者との外出体験
- 在宅の方への送迎サービス



市川市災害ボランティアセンター立ち上げ訓練

地震などの大規模災害を想定し、訓練と検証を行う。

市川市に大規模災害発生——を想定して、昨年11月29日「災害ボランティアセンター」の立ち上げ訓練が市川市勤労福祉センターを舞台に行われ、社協職員も総動員体制でセンター運営に参加しました。

この訓練は、平成18年から実施しており、今回で3回目となる。市川市といちかわ社協、NPO法人市川市ボランティア協会、市川災害ボランティアネットワークなどで組織する〈実行委員会〉の主催で行い、市川市近隣の社協職員を含めた約100名が参加しました。

訓練は午前9時の立ち上げ作業に始まり、ボランティアの受付、ボランティア保険の加入手続き、活動にあたってのオリエンテーション、被災者からの依頼とボランティアを調整する業務であるマッチング、活動報告までテキパキとした動きで処理されていました。

午後は、避難所の体験学習会と「災害ボランティアセンターの業務と課題について」と題する水戸川和正氏（広島レスキューサポート・バイクネットワーク副理

（専）の講演がありました。

この中で水戸川氏は「第一に、全国から駆け付けてくれるボランティアが、スムーズに活動が行えるようなセンターの運営体制を——。当然のことだが被災された方々が必要とする救援活動が滞りなく行き届くように」とアドバイスしました。実行委員の一人として訓練に参加した、いちかわ社協の山



ボランティアのマッチングを行う



駆けつけたボランティアの受付を行う

本正一郎さんは「いざ!というとき、いかに迅速に災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災した市民の救援・復興に貢献するか——が最大の目的。半年かけて準備してきましたが、それでも細かい部分では反省も多く、今後はさらにマニュアルの見直しを行い、100点満点をめざして、訓練を重ねていきたい」と語っていました。

安心を支えます ボランティア活動保険

ボランティア活動中のケガや賠償事故を補償



特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 熱中症（日射病・熱射病）による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震等天災によるケガも補償（天災タイプ加入の場合）

ボランティア行事用保険

地域福祉活動の一環として行うボランティアに関する行事におけるケガや賠償事故を補償！

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャー等の活動中のケガや賠償事故を補償！

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故等によるケガを補償！

保険料（掛金） Aプラン...260円 Bプラン...420円 Cプラン...590円
天災危険補償タイプもあります。

お申込み、ご照会は、あなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

http://www.fukushihoken.co.jp

〈引受幹事保険会社〉日本興重損害保険株式会社

福祉の仕事は、楽しさ・やりがいがいっぱい!!② もっと勉強し、人間として 成長していきたい!



しもふさ学園 支援職員 **奈良輪 秀幸さん**



就労移行に向けた作業支援の様子 (左が奈良輪さん)

〈奈良輪さんの1日のスケジュール〉

- ・8時 出勤、利用者の身だしなみを整える。
- ・9時～11時30分 利用者さんの作業の支援
- ・11時45分～13時 昼食支援・休憩 一緒に過ごす。
- ・13時～15時30分 利用者さんの作業の支援
- ・15時30分 作業終了
- ・～17時 入浴支援 退勤

*その他に、宿直月3～4回、早番、遅番出勤もある。
毎週金曜日は、近くの中学校でバレーボールの練習。
土曜日は、ゆうあいピックに備えた駅伝の練習。



保育の仕事から障害者福祉の道へ——。誰もが可能な限り地域社会で暮らせる条件づくりが求められ、障害者福祉施設の役割も大きく変わる中、常に自分に問いかけをし、日々学びながら実践している奈良輪さん。「自分が楽しくなければ、利用者さんも楽しくない」がモットーで、仕事はとにかく一生懸命。恋や遊びや趣味にも一生懸命の夢好き若者です。

■福祉の仕事に就かれたキッカケは?

中学生の時から子供が好きで、保育士になりたいと思い、専門学校に通いました。私の通っていた学校は、保育だけでなく、障害について勉強することに力を入れていて、自然と興味を持ち、障害者施設での実習やボランティアへも積極的に参加しました。

一度は保育園に就職したものの「やっぱり障害のある方々を応援する仕事をしてみたい」としもふさ学園の採用試験を受けました。試験当日、学園の掲示板で職員にバレーボールの参加を呼びかけるチラシを見て「ビビッ」ときました。専門学校時代、チームをつくってバレーボールをやっていたので、好きな仕事ができるうえに好きなバレーボールもできる——「こんな理想的な職場はない」と思ったんです。

■やりがいや喜びを感じるの是什么时候ですか?

はじめて、利用者の方から名前でも呼んでもらえたときは嬉しかったですね。今でも鮮明に覚えています。まだ働いて2年しか経っていないので、仕事面では覚えることでいっぱい。先輩から丁寧に教えてもらい、早く職場になじむことができました。気持ちで動いちゃうタイプなので、もっと理論などを学んで身につけたいですね。毎週土曜日は、駅伝指導で6名の利用者と一緒にマラソンをしています。みんな速いので、追いつけるよう必死に走っています。

■プライベートも充実していると伺いましたが…

休みの時は、友人とカラオケで大好きなEXILEを歌ったり、ゲームはXBox1にはまっています。ただひたすら走るだけです。ドライブで気分転換もしています。学生時代に知り合った彼女と4年間交際しています。先輩にそのことを話したら「社会人になったんだから、一度くらい彼女のご両親に会いに行ったらどうか」と言われました。中学、

高校と野球部に所属しており、どちらかといえば体育会系なので、こういう話しは苦手でしたが、施設長も後押ししてくれて、1月に有休をもらって彼女の両親に会いに行くことになりました。彼女は保育士で、この仕事について理解してくれて、何よりも僕が楽しそうなのがいいと言ってくれます。

■今後の夢や目標は?

ちっぽけと言われますが、もっと勉強して将来はチーフになり、利用者一人ひとりに寄り添った支援の処方箋を描けるようになりたい。後輩や実習生にしっかりと教えられるように頑張りたい。夢ははじまったばかり。長く勤めたいと思える職場ですし、お給料にも満足しています。休みも取りたい時に取れるし、残業も基本的にはありません。人間として、これからも成長していきたいと考えています。

■これから福祉の仕事を目指している人たちにメッセージを

福祉の仕事は決まった答えがなく、日々変化に富んでおり、大変なこともありますが、1日利用者の方と過ごして、笑い合えたりできる仕事です。自分が明るく楽しくしていると、利用者も楽しめない。障害のある方々への支援に少しでも興味があったら、ボランティアなどをして現場の空気を吸ってほしいと思います。



自慢の愛車と…

やりがいと魅力がいっぱい、福祉の仕事

●「千葉県福祉人材確保推進会議」が発足

これからの福祉を担う人材の確保を進めていく組織として、千葉県社会福祉協議会では、このほど田邊信行副会長を座長として「千葉県福祉人材確保推進会議」を設置しました。同会議は、高齢者や障害者をはじめ、県民が安心して暮らすことのできる地域社会の実現に向けて、県内の福祉関係12団体が協働し、将来にわたって安定した福祉の人材確保と、定着のための施策を総合的に進めていくのが目的で、①福祉の人材確保と定着に向けた対策の検討と推進 ②福祉分野の関係団体等の対策の調整・情報交換 ③千葉県等に対する福祉の人材確保に関する提言・要望等を

行います。また、先に行った千葉県知事への「福祉人材確保に関する緊急提言」に加え、介護・福祉サービスの仕事は「やりがいと魅力のある職業」であることを広く県民に理解していただくため、「チバテレビ」で放映する番組を制作中です。今後も、千葉県庁内に設置されている「福祉人材確保・定着対策本部」と連携し、福祉の担い手の人材確保・定着に向けた取り組みを進めていく方針です。

人材確保に苦戦する 福祉施設の脱出法



●社会福祉施設等管理職セミナー

社会福祉法第24条では、社会福祉法人は一般企業のような「経営」を意識しなければならなくなりました。しかし、残念ながら多くの社会福祉法人では様々な情報に振り回され、「経営」を意識することなく「運営」をしているような状況があるとされています。そのような「運営」は、マイナスのスパイラルに陥り、経営環境がますます悪化することは自明であり、必要に応じた改革を進めなければ、有能な職員の離職やサービスの低下に繋がることが十分予測されます。今回のセミナーは、様々な情報の中で具体的に何をしなければよいか、社会福祉施設等の社会的責任・果たす役割や期待に応える手掛かりを探り、福祉現場の活性化を図るとともに「福祉職員の定着促進」が実現することをめざします。

- 対象者/県内の社会福祉施設等において管理者の立場にある方。
- 日時/平成21年2月25日(水) 10:00～16:00
- 場所/千葉県労働者福祉センター 2階大ホール
- 参加費/6,000円
- 定員/200名(先着順。定員になり次第締め切ります)
- 講師/株式会社南経営 人事労務部人事コンサルタント 社会保険労務士 服部 英治氏

■お問い合わせ先/
千葉県社会福祉協議会 社会福祉研修センター(担当:中村)
TEL 043-241-5120
FAX 043-241-5121

「見えざる障害」を 地域で支える



●高次脳機能障害研修【基礎編】

交通事故、転落事故、スポーツ事故などによる脳の損傷や脳血管障害、脳炎の後遺症として〈記憶〉〈意思〉〈感情〉といった脳の働き(機能)に障害が現れることがあります。これらの症状は、身体的な後遺症とは異なり、一見分かりにくい適切な支援が受けられなかったり、周囲の理解の得られないことが多いものです。本研修では、高次脳障害の中で、日常生活及び社会生活への影響が大きいとされる様々な障害の基礎知識を学び、生活への影響、適切なかわり方、支援のあり方などについて、その技術を高め、福祉サービスの向上に貢献することをめざします。

- 対象者/千葉県内の社会福祉施設や医療機関に勤務する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保健師、看護師、介護支援専門員、MSW、施設介護職員など。
- 日時/平成21年3月23日(月) 10:00～17:00
- 場所/千葉県労働者福祉センター 2階大ホール
- 参加費/6,000円
- 定員/200名(先着順。定員になり次第締め切ります)
- 協力/千葉県千葉リハビリテーションセンター

■お問い合わせ先/
千葉県社会福祉協議会 社会福祉研修センター(担当:中村)
TEL 043-241-5120
FAX 043-241-5121

みなさん、「生活福祉資金」をご存じですか?

社会福祉協議会では民生委員と連携して、比較的所得が少ない世帯・障害者の世帯・高齢者の世帯に対して「生活福祉資金」の貸付をおこなっています。

【資金種類(例)】出産費、葬祭費、転宅費、福祉用具購入費、障害者のための自動車購入費、住宅の増改築または改修のための資金、高校・大学・専門学校等の修学費および入学の際の支度費、療養費、介護等費、被災した際の再建資金、技能習得のための資金、緊急小口資金、離職者支援資金、長期生活支援資金等

※貸付条件(貸付対象、貸付限度額、返済期間、利率、連帯保証人の有無等)は資金種類ごとに異なります。
※貸付制度ですので返済の義務があります。なお、貸付審査の結果貸付に至らない場合もあります。

資金についての相談窓口/お住まいの市区町村社会福祉協議会または民生委員へご相談ください。
千葉県社会福祉協議会 ☎043-245-1551

“高次脳機能障害”について考えてみませんか!?



脳卒中や交通事故などで脳に損傷を受けた結果、覚えられない、考えがまとまらない、怒りっぽくなる——等の症状が突然出た状態を〈高次脳機能障害〉と言います。高次脳機能障害は『見えざる障害』と呼ばれ、外見上では分かりにくく本人ですら障害を負ったことを十分に認識できず、職業復帰も含め社会的に冷遇されて生活に支障を来す事も多いと言われてしています。高次脳機能障害の方が、地域で安心して暮らしていくためには、周囲の方々が高次脳機能障害について正しい知識を持ち、あたたかく見守っていくことが大切です。

昔からあった『高次脳機能障害』

高次脳機能障害という言葉は、最近使われ始めた言葉ではありません。最もよく知られている高次脳機能障害は〈失語症〉でしょうか。

脳出血や脳梗塞等の後遺症で、「みんなが話している内容が理解できなくなった」、「話したい気持ちはあるが言葉が出てこない」、「話したい内容に該当する言葉が分からなくなって、自分でしゃべっている言葉がどうもトンチンカンらしい」——等、これまで話せていただけに、本人の混乱は相当なものだと思います。

失語症は、「しゃべれない」という現象がハッキリしていれば、比較的周りの人たちも気づきやすい障害ですが、実はもっとたくさんの障害の種類があり、大脳皮質（大脳の表面）の中でも、特に認知という機能を受け持っている領域が、何らかの原因で機能しなくなった時に「高次脳機能障害」と総称します。

例えば、人の顔や文字・形が分からない「失認」や、自分が今いる位置が分からない「見当識障害」、麻痺はないのに身近な物品が扱えなくなる「失行」——等、以前からその存在や実態について知られているものもたくさんあります。

支援普及事業への取組みに関する全国の動き

平成13年度から始まった〈高次脳機能障害支援モデル事業〉では、当事者・家族の会からの強い要望もあり、障害者支援の狭間にいる高次脳機能障害者への医学的・福祉的な支援に関する基準や、プログラムを普及することが目的とされました。

中でも社会的行動障害は、発症前と人格がガラリと変わってしまい、家族でさえも荒れる本人から我が身を守ることに精一杯——といった日常に疲れ果てるという深刻な毎日を過ごすこととなります。モデル事業ではこれまで支援の対象として気づかれにくく、支援の狭間に陥りやすかった記憶障害・注意障害・社会的行動障害への支援に関する研究が、当初から取り上げられていました。

モデル事業は、平成17年度で終了し、平成18年度からは厚生労働省の補助事業として全国展開されましたが、本事業への取組み方は各県によって様々です。現在、全国38の都道府県が高次脳機能障害支援普及事業に取組み、国立障害者リハビリテーションセンターの主催で「全国連絡協議会」が毎年開催され、各県の事業について情報交換されています。

千葉県でも、支援拠点機関である千葉リハビリテーションセンターが、モデル事業の頃と変わらずに取組みを進め、平成19年度には、東葛地域の〈旭神経内科リハビリテーション病院〉が地域支援拠点機関として新たに指定されました。

日中活動の場を拡げる取組み

記憶障害・注意障害・社会的行動障害は、それぞれの障害に焦点を絞った取組みがされているとは言い難い状況で、中でも社会的行動障害に関しては、本人が引き起こす問題行動としては認識されても、生活のしづらさとして、本人の視点に立った支援が工夫されることはまだ十分ではありません。

残念ながら、こうした社会適応が困難な症状を持つ人たちに対する社会復帰・生活支援に関しては、わが国ではまだ取組みが始まったばかりで、千葉県でも、まだまだ取り組めていないといえます。

千葉リハビリテーションセンターでは、地域連携部が窓口となり、障害者の生活支援の事業者と協働で、勉強会の開催や支援計画づくりに参加しています。

具体的な支援は、一人ひとり抱えている問題が複雑ですので、みんなで知恵を出し合って試行錯誤を積み重ねながら、支援のノウハウを整理していければと思っています。ご希望がございましたら、人数は少なくとも高次脳機能障害者支援のための勉強会にも参加させていただきますので、お声かけください。

相談窓口は、千葉リハビリテーションセンターホームページ (<http://www.chiba-reha.jp/reha/reha.html>) にもありますが、まずはお気軽に相談室 (043-291-1831 内線209 or 226) までご連絡を頂ければ——と思います。



「自然の中の宿」久留里荘をご利用ください。

※永年ご愛顧頂きました久留里荘は、平成21年3月をもって廃止させていただきます。

〈宿泊料〉消費税込				
利用者区分	宿泊料	食料		合計
		朝食料	夕食料	
60歳以上の方	2,920円	830円	2,070円	5,820円
一般利用の方	3,830円	870円	2,170円	6,870円
小学生	2,920円	830円	2,070円	5,820円
幼児(4歳以上)	1,460円	実費	実費	1,460円 +実費
幼児(4歳未満)	無料 (布団不使用の場合)	実費	実費	実費

〈休憩料〉消費税込		
利用者区分	休憩使用料	
60歳以上の方	お一人様1日	700円
一般利用者	お一人様1日	1,050円
小学生	お一人様1日	620円

久留里荘

〒292-0434 千葉県君津市向郷 1632 TEL 0439-27-3180 FAX 0439-27-2776 <http://park21.wakwak.com/~kururisou/>

編集後記



先日、自分の部屋を掃除していたら、県社協に就職した時に持ち歩いていた手帳を見つけました。その中に、「親しまれやすい広報誌を作っていくことが、広報担当者の使命」と、当時の編集委員だった職員に教わったことが書いてあり、改めて“初心”を思い出しました。

さて、今回の特集でもご紹介した、「ふれあい・いきいきサロン」等の地域福祉を強く志向とする活動は、全国的にも広がりを見せており、さらに多様な地域住民の参加を得ながら、地域社会へと繋がる運営をめざした活動が展開されています。

地域に根ざしたその一つひとつの活動の中に、専門職と住民の協働による歯科健診事業が入るということは、誰もが生きがいを感じながら仲間づくりを行い、安心して住みなれた地域で暮らすことができる、新たな地域社会を築く〈原動力〉になるのではないかと感じました。(安藤)